

春の展示「五月人形展」開催！

4 月 1 日(火)~5 月 11 日
横浜人形の家 2 階常設展示室

横浜人形の家では端午の節句にちなみ、「五月人形展」を開催いたします。

江戸時代後期の大型の武者人形(高さ約 70 cm)など人形約 20 体の他、人形や幟(のぼり)を並べた節句飾り一式などを展示、「五月人形」ならではの力強い人形をご紹介します。

●武者人形や五月の節句飾りなど、様々な「五月人形」を紹介

現在、五月の節句飾りといえば、兜が中心ですが、明治・大正ごろまで中心に飾られていたのは、武者人形が中心でした。武者人形は「豊臣秀吉」や「加藤清正」など実在の人物や、「神功皇后(じんぐうこうごう)や武内宿禰(たけのうちのすくね)」「鍾馗(しょうき)」「金太郎」など、伝説上の英雄などをモデルとしている人形が多く、いずれも文武に秀でた人物や成功した人物、魔除などを意図した人形で、子どもの健やかな成長への願いがこめられています。躍動感があり、力強い表情が特徴です。

関西では、「大将」が飾られることが多く、「鍾馗」が好まれたのは関東だと言われています。



「大将」江戸後期



武者人形「源頼朝」を中心とする節句飾り(江戸後期)

お問い合わせ先

[→裏面もご覧ください](#)

●五月の節句とは

五月の節句は端午の節句ともいい、奈良時代頃、中国より伝わった古い行事です。端午の端は「はじめ」という意味で、「端午(たんご)」は5月最初の午(うま)の日のことで、5月5日が端午の節句として定着していきました。

江戸時代に幕府の重要な式日として定められ、この節句に欠かせない「菖蒲」が「尚武・勝負」に通じることから武家では特に好まれ、跡継ぎとなる男の子の誕生を祝い健やかな成長を祈るため、災厄から身を守る象徴として鎧兜を飾るようになりました。江戸時代の中頃まで、軒先など屋外に飾る「外飾り」が中心でした。外飾りの武者人形が大型なものが多かったのですが、次第に小型化し、往来に面して飾ったものが内庭や縁側に移動し、やがて座敷に並べられるようになりました。



「鍾馗」 明治時代



「神功皇后と武内宿禰」 明治時代



「金太郎」 佐野光輝
昭和前半

—横浜人形の家の入館料が変わります—

日頃より横浜人形の家にご来館いただき、誠にありがとうございます。
横浜人形の家は、開館から28周年を迎える今年、「再生/Re-Born」をコンセプトに企画展示や劇場催事の内容の充実を図ります。これに合わせ、4月1日(火)から、入館料を以下の通り改定させていただきます。

今後とも皆様に愛され、親しまれる「横浜人形の家」として、'来て楽しい、また訪れたい'なる施設を目指し、努めて参りますので、引き続きご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



新しい横浜人形の家ロゴ

●入館料の変更

| | 改定後(4月1日から) | 改定前(3月31日まで) |
|-----|-------------|--------------|
| おとな | 400円 | 300円 |
| こども | 200円 | 150円 |

※団体割引(20名以上); おとな・こども共50円引き

●URLの変更

<http://www.doll-museum.jp> (4月1日から、旧アドレスより変更になります)

●開館時間等(変更なし)

- ・開館時間: 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- ・休館日: 毎週月曜日(害曜日が祝日に当たる場合はその翌日)・年末年始
- ・問合せ: 電話/045-671-9361 Fax/045-671-9022
- ・住所/横浜市中区山下町18番地